

日本看護歴史学会

會報

日本看護歴史学会
第29号
1998年2月27日

夢のまた夢

日本看護歴史博物館の建設を

高田 節子

一九九八年の正月、初夢を見た。それは立派な日本看護歴史博物館が山を背にした海に見える眺めの良い丘の上に建設されて大勢の観覧者が入りし、人々の顔を見ると入場時とは大違いで皆ホットしたニコニコの笑顔で帰っている。心が平和になったのよと語りかけているような清々しさを示した顔であった。今、思い起こすと、日本看護歴史学会員のA・B・C・D・Eさんのお顔が見えていた。会館は立派な建物であるが、館内を見渡すと残念なことに陳列の展示品は何もなかった。何か沢山の展示物が並んでいるとヒントが得

られたかもしれない。そんなところで残念ながら目が覚めてしまった。朝方まで大きく広がる夢であれば良かったのに……。夢を見るには何かきっかけがあるがどうしてこのような夢を見たのか？ 原因を探してみると、一つには九七年末にべっしょちえこ著『川村郁悲しみの阿修羅』や守屋研二著『小林富美栄と看護——その歴史社会学的分析』をよみ、現在東京の一等地に建設され堂々とそびえている日本看護協会会館の建設までのいきさつや苦労話を読んでいたことと一つには、あらゆるものすべてがそうであるが、筆者らは

数年前より看護で活躍した個人に注目し看護が発展していくのは個人のたゆまぬ努力があつてこそ進歩するのだと思い、大正十年英国ベッドフォード大学へ留学した田淵まさ代の後継者のお宅へ訪問しご理解・ご支援を得てきちんと整理され、大切に保管されているナイチンゲール記章他の数多くの勲章、愛用した図書、日記、写真、生活用品などの遺品を見せて頂いた。その上、日記数点、多数の写真、お便りなどをお借りすることができ研究を進めている。日記では明治四十五年を例にあげると東京博物館発行の縦十五・横十一種の大きさを毎日一ページの記入欄があり、起床時間から書き始め、その日にあった私事、勤務の様子、社会面の大きな出来事、就寝時間などが備忘録として記載されていた。実物を見ることで、筆舌では語りつくせない人物像が浮かんでくる。借用期間が過ぎればお返しをしなければならぬのだが、多くの関心のある人達に見てほしいと思うのである。そうしないと何百年も経過すれば輝いた立派な偉業もその人物もわからなくなってしまうのではないか。これらを展示することで看護歴史に関して専門職業人として発達して来た過程

の位置を自覚できるようにはしないか。百聞は一見にしかずである。看護の先達者個々の具体的ありように執着し、その人の肌ざわり、ぬくもりを実物によって伝える。律儀な明治の看護婦像を知る上でも大切な目で見る史料であるといえよう。というように訳で日本看護歴史博物館（仮称）の建設を夢を見たことだと思ふ。夢のまたその夢を実現できないか？ と思ふようになった。

悠久の母なる流れの川の辺りに立ち、あたりを眺めふと足元を見ると箸が流れ着いている。ものを食べる時の用具である箸は使い古した一本の箸であった。この箸のこの模様であれば？ この長さであれば？ どんな人が使ったのであろうか？ 川上へ行って見たくなる。何を食べ、手はどのように動いて箸を使い、どのように噛んでのみ込んでいたのか。食欲は、排泄は、栄養はと、どんどん思ひは膨らんで使った人に逢いたくなる。そして話をしたくなる。もう片一方の箸はどこにあるのだろうか。とただ一心に探して一対にしたくなる。そのような出会いの場として看護歴史博物館の有用性を提案するものである。

（資料Ⅱ史料の場合もあるが略した）

第一二回日本看護歴史学会大会予告

第一二回大会は、大分県別府市にて開催されます。

メインテーマは「戦後看護教育の検証」です。現在の看護教育は変換点にあります。ひとつは大学化への進展、もう一つは准看護婦養成停止の問題です。これらの出発点に焦点を当てて歴史的に検証し、二一世紀の看護教育を展望する機会にしたいと考えています。

◆開催期日および会場

平成一〇年八月七日(金)〜八月八日(土) 両日

大分県青少年会館

〒八四一〇九五

別府市上野口町一九の二〇

TEL〇九七七(二一) 四四一六

◆大会プログラムの概要は次号に詳しくお知らせします。

◆研究発表の募集

研究発表の申し込みを次の要領で募集します。

- 一、研究テーマ
- 二、発表要旨八〇〇字以内
- 三、応募締め切り

平成一〇年五月三十一日

(当日消印有効)

四、学会事務局(岡山宛)

研究発表申し込みと朱書き

◆分科会は従来の形式ではなく大会一日目の夜、自由集会の形で実施します。詳しくは次号にてお知らせします。

九州では初めての大会になります。温泉を楽しみながら歴史を語り合いませんか。多くの方の参加を期待しております。

◆会員の異動等について

◎退会

松永 勝 (No.87-048)

◎新入会員

赤星 成子 (No.97-015)

〒780 高知市若草町一〇一四四

〒888-1442 八八八-四四二五四八

※この社会情勢の中、看護職の移動が非常に頻繁です。住所変更等の場合、ファックスでも結構ですので、必ず事務局へご連絡下さい。

◆本会の出版物をお求めの方は、事務局へ御連絡下さい。

◎『日本看護歴史学会会報』

創刊号より第二八号まで可

頒価 一部 二〇〇円

送料 一部 八〇円

◎『日本看護歴史学会誌』

第二号より第一〇号まで可

頒価 一部 五〇〇円

送料 一部 一二〇円

◎日本看護歴史学会「看護婦発祥百年記念アルバム・看護婦のあゆみ」

頒価 一冊 七〇〇円

送料 一冊 一二〇円

※これらの出版物をお求めの場合

は送料を含めて、郵便振込口座

にお振り込み下さい。

郵便振替口座番号

〇一〇一〇一〇一五二一八五

日本看護歴史学会

◆会費納入のお願い

98年度の会費(四千元)を同封

の振込用紙で納入してください。

尚、未納額を確認されたい方は

会計の大平政子氏(〒四六七一〇

〇〇一 名古屋瑞穂区瑞穂町宇

川澄一、名古屋市立大学看護短期

大学部)へ御照会下さい。

◆お知らせ

記念すべき当学会誌第十号をようやくお届けすることが出来てほっとしています。心待ちにしておられた会員のみなさまのお気持ちを思うと胸が痛みます。

ここに深くお詫び申し上げます。なお、第十一号については、編集委員諸姉の努力もあって、通常どおり発刊の見込みです。念のため申し添えておきます。



日本看護歴史学会会報第二九号 編集責任者 発行責任者 岡山寧子・福本 恵 京都府立医科大学 医療技術短期大学部	事務局 〒602-0857 京都市上京区 清和院口寺町東入 京都府立医科大学 医療技術短期大学部 岡山寧子・福本 恵 TEL〇七五-二二-五五四二(山) FAX〇七五-二二-五四二三(岡)
--	--